

建材・住設ニュース

シャッター

小松電機、ソウルに製造子会社

シートシャッター アジア進出第1号

小松電機産業は、韓国ソウルに現地法人と工場を設立した。工場は韓国をはじめ、近隣のアジアなどに販売する高速シートシャッターの生産拠点として6月中に稼動を始める。現地法人「小松コリア」は今年5月に設立した。「小松コリア」は昨年5月に開設したソウル支社から順次、業務を移管、部材の調達や、新設した韓国工場で生産する高速シートシャッターの海外展開に向けた販売拠点に位置付ける。工場は2階建ての総面積約300m²。高速シートシャッターの製造や施工、メンテナンス業務を担う。小松コリア全体で本年度500台の生産販売を目指す。グローバル化とともに世界展開の方として小松電気の小松昭夫社長が06年12月、「ガレージファクトリー構想」を発表、「最終ユーザーに近い場所での生産、アフターサービスの充実、200平方メートル程度の用地」での、世界多拠点生産について計画を進めてきた。今回「門番」新型の開発進捗にともない、韓国



「小松コリア」工場正面

をガレージファクトリー構想の第1号と位置づけ、韓国国内の需要と、FTA政策の進捗にもなう韓国からの輸出を視野に現地法人を設立した。これにより同社は、高速シートシャッター市場を構築したパイオニアとして、韓国のユーザーの施工・コンサルティングから運用管理まで、幅広いサービスの提供体制を一層強化していく。「小松コリア」の資本金は日本円で2,300万円、小松電機産業が100%出資した。本社所在地はソウル特別市、工場所在地は京畿道始興市。代表理事に小松電機産業社長が就任した。小松昭夫代表理事の話。「ユーザーの近くにあるコンビニエンスストアのように製造拠点を置く『コンビニ化』を進めるため、近くタイ、シンガポール、マレーシア、中国で進出のための調査をする。アジアでは(高速シートシャッターを使う)工場新設や増設が相次いでいる。このチャンスに市場を広げたい。」

シートシャッター

貨客船で韓国子会社から「門番」部材輸入

境港で初荷式 小松電機

小松電機産業は6月3日、韓国におけるシートシャッター「門番」の現地工場で生産した「門番」部材の第一便が境港国際フェリーターミナルに到着、同ターミナルで初荷式を行った。7月から日韓両国で新型門番の販売を始める。初荷式には同社や環日本海経済活動促進協議会、鳥取、島根両県、DBSクルーズフェリー社の関係者ら約40人が出席。DBS社のユン・ギュファン副社長は「貨客船が就航して今月末

建材・住設ニュース

に投入する。これまでの収納系の網戸商品の中にも外せることをうたったものは商品として存在していたが、一般ユーザーでも簡単にとはいかななかったのが実際である。このユーザーの不満を解消させるべく開発されたのが今回の「トレミド」である。取れる網戸だからトレミドと商品名称も名づけた。このトレミドはプリーツ加工した折畳みのネットを使用したものでコンパクトに収納できる特徴はこれまでどおりで、スライド式レールと独自のワイヤーテンションにより網戸の本体ユニットを独立させることにより、本体ごと取り外せるものとなっている。この本体があらかじめ開口部側に取り付けたアタッチメントのラッチツマミ操作によりワンタッチで簡単に着脱することが可能になったものであり、床に広げてネットを拭いたり、水をかけて洗うことが出来るうれしい設計となっている。下レールは高さ3ミリのバリアフリーで出入りの邪魔にならないのもこれまでどおりである。戸建住宅やマンションにしても玄関を開けることにより家全体に風がとおるようになるのは良く知られていることであり、この夏の節電対策でエアコンを止めて網戸にする過



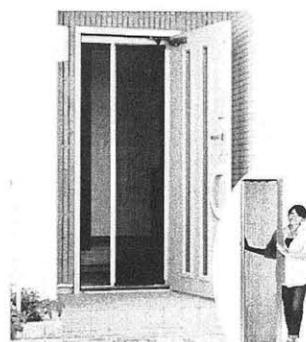
日韓定期貨客船を活用した初めての部材輸入を祝う小松電機産業の小松昭夫社長(左から3人目)ら=境港市昭和町、境港国際旅客ターミナル

で2年になる。東海一ウラジオストクの貨物は好調だが、今回をきっかけに東海ー境港の貨物が増えることを望む。小松社長は「新型『門番』を世界に広めていきたい」とあいさつ。関係者がテープカットの後、初荷のコンテナを積んだトラックの出発を見送った。初輸入されたのは、アルミ製のフレーム(長さ6メートル)500本とシートを巻き取るドラム220本。40フィートコンテナ1個に積み込んで運ばれた。今後も月1回、同コンテナ1個分を韓国・東海港から境港に輸入する。

網戸

外せて洗える収納網戸「トレミド」新発売 セイキグループ

セイキグループは、6月14日に新しいアコードン網戸「トレミド」を発売した。この商品は従来の収納網戸の欠点であった取り外しの面倒さや清掃のやりづらさを改良したもので玄関や勝手口ドア用の決定版として満を持して市場



トレミド